

～認知症の本人と進めるまちづくり～

令和2年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：産・学・地域連携による「注文をまちがえるカフェ（仮称）」運営方針検討調査
研究代表者：社会福祉学部 教授 柏葉英美
課題提案者：（株）テムテック研究所 成田英樹 滝沢市認知症の人と家族の会 櫻野正之
研究メンバー：菅野道生¹⁾ 成田英樹²⁾ 櫻野正之³⁾ 4) 和田與四郎⁴⁾ 小川晃子¹⁾ 3) 4)
1) 社会福祉学部 2) （株）テムテック研究所 3) 滝沢市認知症の人と家族の会
4) 時計屋カフェ
キーワード：認知症バリアフリー、注文をまちがえるカフェ、おれんじカフェ

I. 研究の概要

認知症になっても自分らしく生活できる環境づくりの取り組みとして、全国的に増えてきた「注文をまちがえる料理店」の開催を検討し、既存のカフェ店舗において、「注文をまちがえるカフェ（仮称）」を定期的に開催することをめざし、その運営方法について関係者の合意形成をすることを目的とし取り組んだ。その結果、認知症のある人が活動できる「パンテックおれんじカフェ」の開催を計画することができた。

II. 研究の内容

1. 講演会の開催：「認知症の本人と進めるまちづくり」をテーマに当事者を講師に講演会およびパネルディスカッションを開催した（図1）。
2. 先進事例の調査および勉強会を開始した。
3. 具体的な運営方法について検討した。

III. カフェの運営について

1. 「注文をまちがえるカフェ」という名称では、「認知症＝まちがえる人」というイメージが先行することから、実施する店舗の名前を入れて「パンテックおれんじカフェ」とした（図2）。
2. 注文をまちがえないシステムとして、メニューを限定し、注文は、①レジでランチメニューと飲み物を注文し、会計を済ませたお客様にナンバープレートを渡し、席まで案内し配膳するというシンプルなシステムにした。
3. 開催は月1回、店舗が休みの月曜日（予約制）とし、店舗内のテーブルの配置や動線の確認など当事者目線で準備を行った。



図1 講演会チラシ



図2 準備したチラシ(左) メニュー(右)

▼定期的・継続的に開催した場合に期待される効果について

開催に向けて準備を進める過程で、COVID-19の感染症拡大により開催を中止しなければならなかった。そのため、「パンテックおれんじカフェ」でのアクションリサーチができなかった。しかし、この取り組みを進めることで期待される効果として以下のことが考えられた。

- ① 認知症当事者や家族にとって、「できることがある」ことが生きがいや喜びにつながる。
- ② 学生や地域のボランティア（サポーター）や地域住民にとっては認知症等のバリアフリー社会の実現や方策について学ぶ場となる。
- ③ この取り組みが、認知症等のバリアフリー社会づくりの先進モデルとして評価され、バリアフリー社会づくりへの波及効果となる。

今後、ワクチン接種が進み、感染症の終息が確認できれば、開催可能な状況である。